

【学園研 B】

1. 研究課題名

大学における地域子育て支援事業一星が丘キャンパスでの子育て支援事業の実践的研究

2. 研究代表者名

所属学部： 教育学部 職名 講師 氏名 清 葉子

3. 研究分担者

所属： 教育学部 職名 教授 氏名 石橋尚子

4. 研究成果の概要（1，200字程度で記入。ただし、図・グラフは使わないこと）
本研究では、次の2点について調査・実践を行った。

(1)大学近隣で行われている地域子育て支援事業についての調査

大学近隣地域の子育て支援事業の現状を把握するために、名東区・千種区を中心とした地域子育て支援を実施している主な施設や公的機関等（5施設・8か所）を見学し、実施者へのインタビュー調査を行った。調査を通して、地域の子育て支援事業のプログラム・支援内容等について明らかにし、大学近隣地域で行われている子育て支援の状況をまとめた。

名古屋市では、子どもが生まれるとさまざまな検診とともに、初妊婦・乳幼児の親子の交流の場を設ける、仲間づくりのための子育てサークルの紹介等乳幼児の親子のサポートを保健所が窓口となって担っている。それぞれの地域で行われている主な子育て支援は、①親同士による子育てサークル②NPOによる子育て支援の提供③小学校区における主任児童委員と民生委員による子育てサロン④障害のある子どもへの支援⑤保育所で実施されている地域子育て支援センター⑥児童館での、自由参加・要申し込みの乳幼児対象クラブ⑦なごやつどいの広場助成事業（主に0歳から3歳までの親子のためにNPO法人などの地域の子育て支援団体が、子育て中の親子のつどいの場の提供・子育てに関する相談、援助の実施・子育てや子育て支援に関する講習会などの活動を行っている場所であり、名古屋市がその事業経費の一部を補助している助成事業）⑧保育園・幼稚園における園庭開放や親子参加の会の8つである。

その他に、保健所・民生子ども課・社会福祉協議会などが中心となって地域の子育てネットワークをつくり、それぞれの機関が連携して子育て支援のイベントを開催したり、相互に交流しながら活動をすすめている。子育てマップは、保育園・幼稚園情報、公園紹介、子育て支援サービスの紹介などを中心に編集されている。名東区は、育児サークル「みんとん」が編集しており、千種区は、田代保育園や学童保育のメンバーが中心となって編集していた。

(2)「子育て応援キャラバン隊」の実践

大学の教員と保育者を目指す学生とで地域の親子を応援する「子育て応援キャラバン隊」を結成し、大学発信の子育て支援を計画・実践を行った。実践後、地域子育て支援の親子あそびの会等の実践を通して、大学の発信する子育て支援について検討した。

「子育て応援キャラバン隊」の主なねらいと趣旨は、以下の3点である。

①大学で子育て支援の取り組みをする。

大学教員と保育者を目指す学生が一緒になって、親子遊びや工作等の内容の企画を立て、大学内で親子のつどいの場を提供する。

②地域で行われている子育て支援を応援する。

地域で活動している母親サークルや子育て支援団体から依頼をうけ、地域の子育て支援の場へ出張する。

③地域で活躍している子育て支援者を応援する。

地域で子育て支援を支えている子育て支援者の方へ、親子遊び・手遊び・読み聞かせ等の紹介や子どもの発達等大学教員の専門性を活かした内容の講座を実施する。

実践の結果と考察

今回「子育て応援キャラバン隊」は、①・②の大学内または地域の子育て支援活動の場へ出張し、親子遊び・パネルシアター等の乳幼児の親子が楽しめる活動の提供を中心に実践を行った。実践の結果は、次の通りである。大学内において1歳頃(歩行が安定した時期)から未就園の親子対象企画を5回、学外への出張企画を3回行った。企画への参加募集方法は、大学のHPで企画を告知するとともに、大学近隣の子育て支援センター・児童館・保健所等にチラシを配布した。参加希望者は、Eメールによる事前申し込み制とした。

12月18日に実施した参加者へのアンケート(有効回答数36枚)からは、次のような結果が得られた。参加者の多くが大学まで所要時間15分～30分程度の大学近隣地域(26人、72%)に居住し、利用交通手段は、多い順に地下鉄・徒歩での来校であった。企画へ参加したきっかけは、大学からの案内やチラシを見て参加したり(19人、53%)、友達に誘われて参加した(16人、44%)であった。企画へ参加した動機(複数回答)からは、参加者は、乳幼児の親子が楽しめる企画と集い、遊ぶ場を求めているということを読み取ることができた。アンケートの自由記述欄からは、「大学内で行っているので安心して参加できる。」「保育者を目指す学生さんのためになれてうれしい。」といった感想が多くあげられ、参加者全員(100%)がまた参加したいと回答した。

次に、参加した学生はアンケートの中で「お母さんと話すことができうれしかった」「普段あまり接することができない乳幼児とふれあえて良かった」「子育て支援の場を見て、体験することができてよかった」といった感想を述べていた。学生全員(100%)がまた参加してみたいと回答し、学生の満足度も非常に高かった。学生が参加していることに対して参加者全員(100%)から好感が持てるという回答を得ることができ、学生が参加していることへの理解も得られた。

また、大学が企画する子育て支援に魅力を感じると参加者全員(100%)が回答し、大学が発信する子育て支援への関心は高かった。今後大学で企画してほしい内容を聞いた(複数回答)ところ、親子体験型プログラムへの希望が多いことが再確認された。大学の専門性を活かした公開講座や育児・発達相談等、保護者向けの企画も求められている。

研究の成果と今後の課題

今回の調査から、大学近隣の名東区・千種区の地域の子育て環境や支援の現状をとらえることができ、それぞれの地域の特徴やニーズが明らかになった。名東区は、転入出が多く、友達づくりの場である母親サークルの活動が活発であり、千種区は、地域の主任児童委員や民生委員が行う子育てサロンが各小学校区で実施されており、地域での子育て支援が根付いていた。

また、「子育て応援キャラバン隊」の実践を通して、参加者の大学が発信する子育て支援への関心やニーズが非常に高いことがわかった。子育て支援が発展し、根付いてきている現在においても、参加者はよりよい場を求め続けているのである。「子育て応援キャラバン隊」の実践には、学生も積極的にボランティアで参加しており、子どもだけでなく、実習でもなかなか関わることができない母親との交流という貴重な経験から、多くのことを学んだようである。

「子育て応援キャラバン隊」の実践は、乳幼児の親子の支援とともに、学生の子育て支援の現状について知ることと保育者としての資質と力量向上をねらってきた。学生を積極的に参加させていく中で、学生自身の保育者としての資質向上や乳幼児の親子を支援していくという意識を高めていくことにもつながると考える。このことは、次世代育成の一環として、学生が大学を卒業後、保育現場や将来母親になった時に子育て支援や母親サークルの立ち上げなどに積極的に参加していく力をつけていくことにもつながっていくであろう。

これからも引き続き、「子育て応援キャラバン隊」の実践を継続していく中で、地域子育てネットワークを大切にしたい地域との連携の方向性や支援内容・実施方法について検討を加えていきたい。そして今後は、親子支援だけではなく、子育て支援の支援者への支援内容・方法や支援者の交流等も視野に入れて、保育者養成大学がもつ特徴を生かした独創的な子育て支援を構想していきたい。

*本研究の詳細は、教育学部紀要2号および日本保育学会第62回大会で発表予定である。